５（１）研究の重点目標

市の本年度の指導の重点

◎　学ぶ楽しさを実感し、深く考え、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
◎　命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進
◎　体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

三教研の研究テーマ（第 16 期）

社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業

教育課程のねらい

・豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成
・自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成
・基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実
・国際理解を深め、わが国の文化と伝統を尊重する態度の育成

研究主題
「社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」(2年目)

◆『社会的な見方や考え方を働かせ』…社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や市民生活と関連付けたりすることである。社会的な見方や考え方を働かせるために、次の点を意識する。
・生活経験や既有の知識では理解できない社会的事象に問いをもつ子どもの姿を求める。
・社会的事象に対する見方や考え方を働かせることで、子どもは更に多面的・多角的に考察するようになる。資料を基に思考したり、フィールドワークをしたりすることを経て、社会的事象の意味や背景を深く理解していく学びを実現する。

◆『よりよい社会づくり』…『よりよい社会』とは、そこにかかわる人にとって、幸せを感じられる社会（持続可能な社会）である。よりよい社会づくりのために、次の点を意識する。
・目の前やこれから起こりうる問題を解決するために、様々な方法で追究し、仲間と互いに協働する中で、自分の考えを深め、問題の解決に迫る子どもの姿を求める。
・自分の考えと仲間の考えのよさをそれぞれ生かしながら、豊かな創造性を基によりよい解決をめざす子どもの姿を求める。
→問題の解決が見えた先にあるのが『よりよい社会』である。

◆『仲間とともに』…「仲間」とは、共に学びあう学級の子どもだけでなく、学びを通してかかわる人たちもすべて含めたものを意味する。よりよい社会づくりへの参画のためには、仲間とかかわりあうことが礎となるべきであると考える。そのために、次の点を意識する。
・追究において、級友とともに様々な人・もの・こととかかわりながら、「仲間」と考えを認め合い、高め合う場を重ねていくことで、考えを深める子どもの姿を求める。
・学習の対象となるすべての人とのかかわりを深め、「仲間」として意識することで、問題に対する切実感を高め、協働してより高い次元の学びへと導く。

◆『参画をめざす』…『よりよい社会づくり』のために「参画する」という行動化だけをめざすのではなく、行動化への意識や意欲を高めたり、きっかけを作ったりするなどの「参画していこうとする」姿や、社会とのかかわりに「思いをはせる」姿もめざす。そのために求められる資質や能力は、以下である。
・資質…確かな社会認識、価値判断、行動力
・能力…コミュニケーション能力
→こうした資質や能力を培い、「一人ではできない社会の仕組みをみんなで考え、自分ができることをみんなで考える」姿勢、つまり、『参画をめざす』姿が見られるようになると考える。
※行動化のみと捉えられることを危惧

【本年度の重点】
「社会的な見方や考え方を働かせることを通して、よりよい社会づくりに向けた新しい価値観を実感する姿の実現」

子どもは、世界に山積する課題に目を向け、仲間とのかかわりの中で、より多くの人が幸せになれる社会（持続可能な社会）の実現をめざす。持続可能な社会とは、平和で民主的な社会と言い換えることができる。その実現のためには、主体的に判断し行動する資質が重要となるが、その基盤となるのが価値観である。人は価値観を基盤として、社会事象を認識し、何らかの判断をし、行動している。個人の価値観は、社会認識や価値判断の過程において、常に吟味され、より合理的なものになっていく。子どもがよりよい社会をつくっていくためには、何が必要かを仲間とのかかわりの中で考え、自ら選択判断し、参画へつなげようとする姿を社会科の授業で目指すことで、価値観の形成も図られる。

昨年度までの研究において、追究活動後の議論する時間に焦点をあてた。全体議論することで、これまでの自分にはない新しい価値観に気付く姿が見られた。しかし、その価値観を子どもが実感し、よりよい価値判断ができたかどうかは更に研究を進める必要がある。そこで、今年度は、社会的な見方や考え方を働かせる全体議論を行い、子どもが新しい価値観に気付いた上で、価値判断の場を設定する。授業では、子どもが多面的・多角的（小学校は多角的のみ）に社会事象を捉えた後、自分はどう判断するのか思考する場面を設ける。こうした学びを繰り返すことで、子供は社会事象を広い視野で捉えることができ、新たな価値観を実感することにつながるだろう。

◎　新しい価値観に気付き、それを実感した上で価値判断するためには、どんな教材で、どんな社会的な見方・考え方を働かせて思考する必要があるのか。また、どのような場面を教師が設定し、価値付けするのか。